

## 127 群衆への教え(1)

ルカによる福音書 12 : 54~59、マタイによる福音書 16 : 2~3、5 : 25~26

### ▶時を見分ける (ルカによる福音書 12 : 54~56)

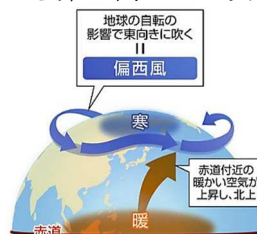
54 イエスはまた群衆にも言われた。

「**あなたがたは、雲が西に出るのを見るとすぐに、『にわか雨 (→俄雨：急に降り出して、すぐ止む雨) になる』と言う。実際そのとおりになる。**

→天候は、西から東へ移る。地球は自転しているため、上空には偏西風という風が西から東に向かって吹いています。例えば、日本付近の高気圧や低気圧はこの偏西風に流されて西から東へと進みます。そのため、天気も西から東へ変わっていくということになります。

→エルサレム：北緯 31 度 47 分 東経 35 度 13 分

(日本：北緯 20~46 度、東経 123~154 度)



55 **また、南風が吹いているのを見ると、『暑くなる』と言う。事実そうなる。**

→南風は、砂漠から吹いてくる砂塵を含む熱風 (夏への移行期) 出典(図):© The Chunichi Shimbun, All Rights Reserved. である。

### 【一言】風の表し方

- ・東風：東から吹いてくる風で、「ひがしかぜ」「とうふう」、また俳句などの季語で、「こち」とも読みます。「あゆ」「こちかぜ」「とんふう」「はるかぜ」とも読むそうです。また、「東風解凍」(はるかぜこおりをとく)とは、冬から春に変わる季節の変わり目のことで、春の暖かい風で雪が解けるという意味から、春の訪れをいう言葉です。東風吹かばにほひおこせよ梅の花 あるじなしとて春な忘れそ(菅原道真、大鏡)→春になって、東の風(この場合、京都から太宰府方向に吹く風)が吹いたならば、その香りを私の所まで送っておくれ、梅の花よ。主人がいないからといって、春を忘れないでおくれ。
- ・西風：にしかぜ、せいふう。また俳句などの季語で「にし」、地名等で「ならい」とも読みます。
- ・南風：みなみかぜ、なんふう。また俳句などの季語で、「みなみ」「はえ」と読みます。
- ・北風：きたかぜ、ほくふう。また俳句などの季語で、「きた」「ならい」とも読みます。

56 **偽善者よ、このように空や地の模様を見分けることは知っているのに、どうして今の時 (→霊的なしるし→マタイ 16 : 3 時代のしるし) を見分けることを知らないのか。」**

### ▶訴える人と仲直りする (ルカによる福音書 12 : 57~59)

57 「(なぜ) **あなたがたは、何が正しいかを、どうして自分で判断しないのか。**

→(回復訳解説) 主がそれを教えなくても、ユダヤ人はその時、彼らが従うべき正しい道と行なうべき正しいこと、すなわち、主を受け入れて彼に従うことを、彼ら自身で判断するだけの十分なしるしを見ていました。

58 **あなたを①訴える人と一緒に②役人のところに行くときには、途中でその人と仲直りするよう努めなさい。さもないと、その人はあなたを③裁判官のもとに連れて行き、裁判官は④看守に引き渡し、看守は牢に投げ込む。**

→(リビング・バイブル：) 裁判所へ行く途中、あなたを訴える人と出会ったら、裁判官の前に出るまでに、問題を解決するよう努力しなさい。さもないと、牢獄に入れられてしまいます。

59 **言っておくが、最後のレプトン (→1 デナリオンの 1/128、約 60~80 円、最小の銅貨) を返すまで、決してそこから出ることはできない。」**

→ (リビング・バイブル:) そうなったら、最後の一レプタ (最小単位の銅貨) まで罰金を払いきらなければ、出してもらえないのです。

→ 当時、借入金を返済できなければ、投獄され (奴隷にされ)、借入金を完済するまでは自由人にはなれなかった。だから、何とんでも、貸主と交渉し、和解することが重要であった。

→ 58 節の①～④の人たちは、すべて神を指している。聖句 (58、59 節) が記しているように、この地上においても和解することは重要である。まして、私たちに告訴する者が「神」であるならば、「神」と和解することは私たちにとって非常に重要なことである。

### 【参考】時がある

タイトル(書名)	章:節 聖句 [検索対象総数: 3 / 聖句等の総数 33250 <時がある>3個]	聖書Navi Active 393128091 (新共同訳) [検索語彙: 時がある]
K コレヘトの言葉	3:1 何事にも時があり/天の下の出来事にはすべて定められた時がある。	
K コレヘトの言葉	3:17 わたしはこうつぶやいた。正義を行う人も悪人も神は裁かれる。すべての出来事、すべての行為には、定められた時がある。	
K コレヘトの言葉	8:6 何事にもふさわしい時があるものだ。人間には災難のふりかかることが多いが、	